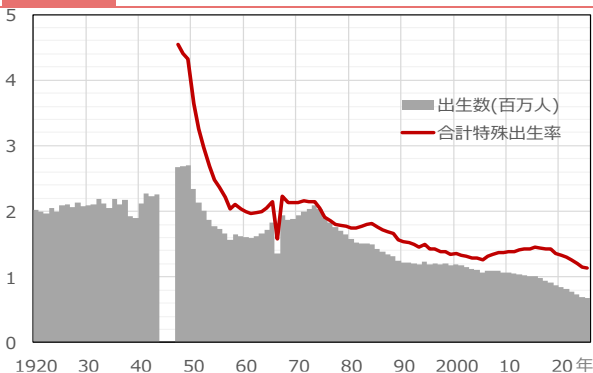


■人口動態統計

厚生労働省から 6 月 3 日に公表された 2025 年 12 月分(年計を含む)の「人口動態統計月報(概数)」^{*1}によると、2025 年の日本人の出生数は 67 万 1236 人と、前年の確定値から 1 万 4937 人減少しました。統計を遡れる範囲では過去最低です。前年比での減少は 10 年連続ですが、10 年前の 2015 年に前年比で増加していたのが信じられないほどです。合計特殊出生率も前年比 0.01 ポイント低下の 1.14 と過去最低を更新し、やはり 10 年連続の低下となりました。出生率が高いことや人口が増えることが良いのかどうかはわかりませんが、この人口動態統計には明るい話題はほぼ皆無です。

図 1 出生数と合計特殊出生率推移



(出所) 厚生労働省(<https://www.mhlw.go.jp/>)
より野村アセットマネジメント

注意深い方は、同じような統計が厚生労働省からその 3 ヶ月ほど前に発表されたことを覚えているかもしれません。具体的には、2 月 26 日に発表された 2025 年 12 月分の「人口動態統計速報」^{*2} という統計です。そのときの 2025 年の出生数は、今回発表された数字より 3 万 4573 人多い 70 万 5809 人でした。もちろんわずか 3 ヶ月で下方修正されたわけではありません。

3 ヶ月前の「速報」は市区町村が各種届出書等から人口動態調査票を作成・集計したもので、日本における日本人、日本における外国人、外国における日本人及び前年以前に発生した事象を含んだ数字です。

これに対して、今回発表された「月報(概数)」は日本における日本人についてまとめたもので、それを単純に 1 年分集計したのが今回の年次人口動態です。「(年計を含む)」と括弧書きがあることからわかる通り、これはあくまで月報の付録との位置づけだと考えられます。そして、この「月報(概数)」に若干の修正を加えたものが 9 月に発表される「人口動態統計年報(確定数)」です。「月報(概数)」を集計したものと「年報(確定数)」にはそれほど大きな差が出ないのが普通です。したがって、2025 年末時点の人口動態は今回の統計でほぼ固まったと見ていいでしょう。

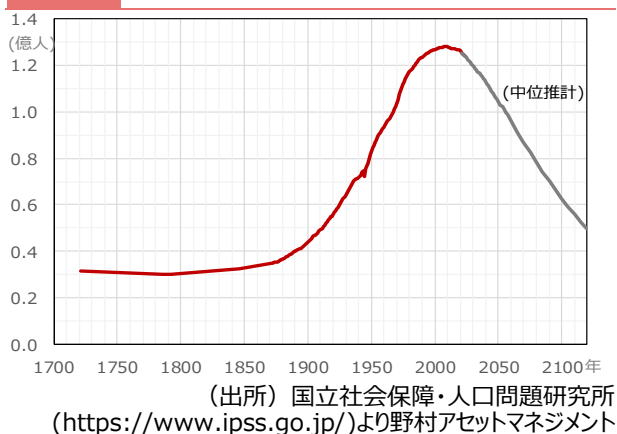
■少子化と人口減少の加速

図 1 を見るまでもなく、出生数の減少は歯止めがかかるところかむしろ加速しているようでさえあります。政府は少子化対策が喫緊の重要課題だと提起し、様々な手段を講じてきましたが、一向に効果が出る兆しはありません。かつては若者の経済的困窮が原因だと考えて、財政支出を伴うような支援も行ってきましたが、人口減少の根本原因を見誤っていたのかもしれません。そもそも親になる世代の人口も減っているわけですから、出生数を増やすことは容易ではありません。

このような出生数の減少にともなって、ずいぶん前から人口も減少トレンドに入っています。人口の自然減は 2007 年から 19 年連続で、1 億

2000万人割れはもう時間の問題です。もちろんそれも単なる通過点で、国立社会保障・人口問題研究所（NIPSSR）による「日本の将来推計人口(2023年推計)」^{*3}の中位推計を大幅に下回り、むしろ低位推計に近いことを考えれば、2050年を待たずに1億人を下回りそうです。

図2 日本の長期人口推移



NIPSSRによる「人口ピラミッド」の過去からの変化を見ると、今はかなりの頭でっかちで、ほとんどピラミッドと呼べるような形ではありません。多くの高齢者を支える少ない若者という構図は、様々な面でひずみをもたらしています。そして、それは今後さらに拡大していくのでしょうか。それを解消したいとの意図からの少子化対策なのだと思いますが、これまでの対策が空回りに終わっていることからわかる通り、自然の摂理に人間の力で立ち向かうのは容易ではありません。このあたりで発想の転換が求められているのかもしれません。

■マルサスの罠

そもそも人口減少は悪いことなのでしょうか？考えてみれば、この狭い国土にこれほど多くの人々が住んでいるがゆえに生じている問題もたくさんあります。それを冷静に眺めると、現在の日本の真

の問題は人口が減っていることでもその原因となっている少子化でもないのではないかと考えてきます。驚くべきことに、明治維新直後の日本の人口はわずか3500万人ほどでした。江戸時代後期も約3000万人で安定推移していました。それがわずか100年足らずで3倍となって1億人を超え、ピークの2007-08年には1.3億人弱に達しました。問題は直近の人口減少ではなく、その前150年ほどの人口爆発なのかもしれません。

人口問題を体系的に論じたのは、18～19世紀の古典派経済学を代表するイギリスの経済学者ロバート・マルサスです。彼の著書『An Essay on the Principle of Population』は日本語では『人口論』と訳されますが、岩波文庫などは『人口の原理』として収録されていて、こちらの方が原題に近いと言えます。この『人口の原理』においてマルサスは、①食糧が人類の生存に必要である、②異性間の情欲は必ず存在する、という2つの自明な前提から出発して、「人口は制限されなければ幾何級数的に増加するが、生活資源は算術級数的にしか増加しないので、生活資源は必ず不足する」という有名な結論を導きます。そして、生活資源が不足するたびに人口減少イベントが起こり、人間の生活水準は元に戻るのだとします。それは飢饉だったり疫病だったり戦争だったりするのでしょうか。これをマルサスの罠とかマルサス危機とか呼びますが、今の日本、そして世界もまさにその罠、その危機に陥っているのではないかと考えてきます。ただ、マルサスの罠は人類が生き延びるための一種の自律調整メカニズムだとも考えられます。戦争状態にある世界情勢はともかく、少なくとも日本の少子化や人口減少をそれほど悲観する必要はないのかもしれません。（K5）

*1 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/m2025/12.html>

*2 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/s2025/12.html>

*3 https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2023/pp_zenkoku2023.asp

野村アセットマネジメントからのお知らせ

■ ご注意

下記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をご覧ください。

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

以下の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

2026年7月現在

ご購入時手数料 《上限 3.85%（税込み）》	投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。投資信託によっては、換金時（および償還時）に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。
運用管理費用（信託報酬） 《上限 2.222%（税込み）》	投資家はその投資信託を保有する期間に応じてかかる費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 * 一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 * ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。
信託財産留保額 《上限 0.5%》	投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。
その他の費用	上記の他に、「組入価値証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。